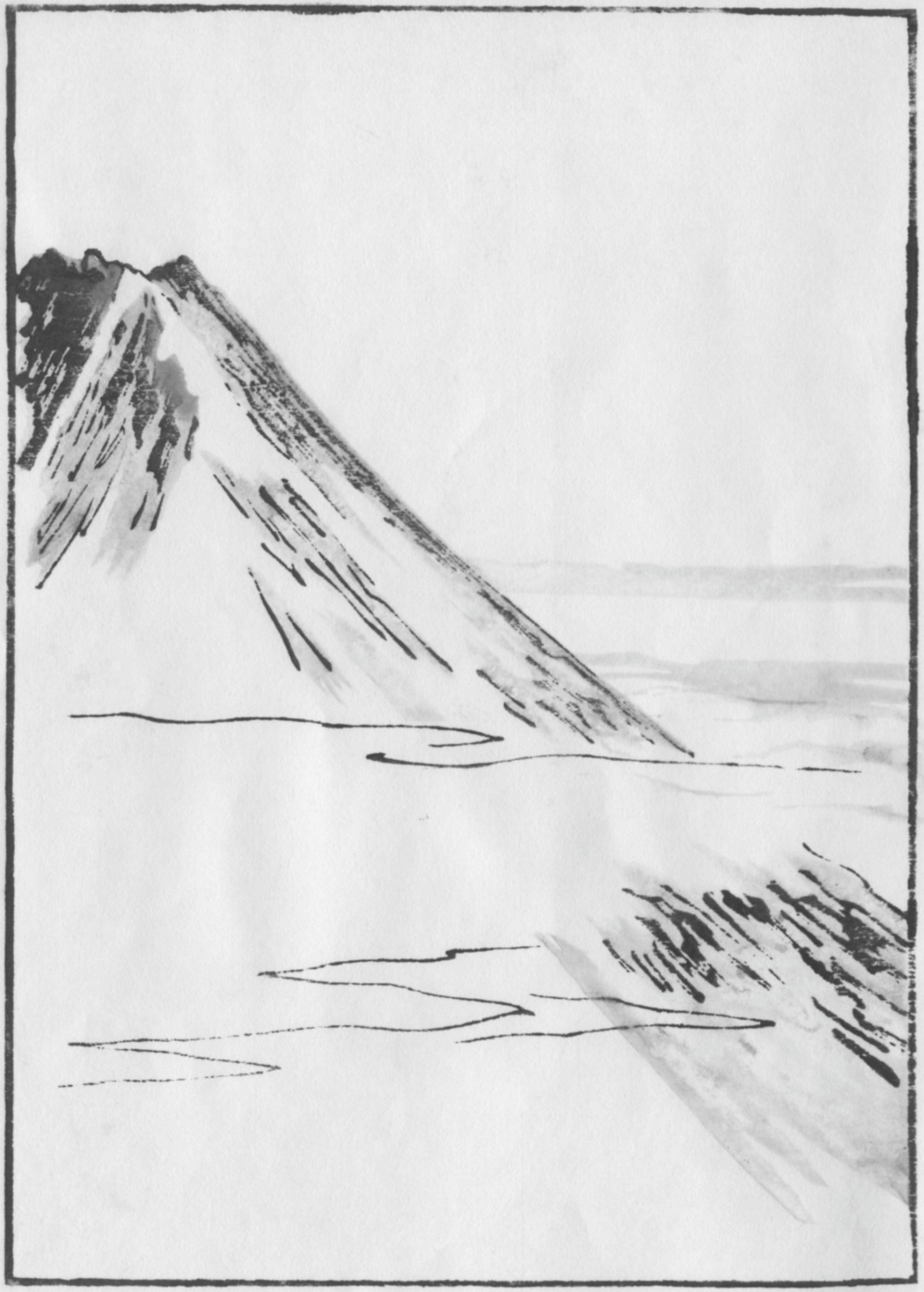

三保松富士晨明

十二代目 常磐津小文字太夫

版元 坂川平四郎

三保松富士晨明

常磐津小文字太夫
岸澤式佐節付
吉河黙阿弥著述

国のぐと。明行く空の雲晴れて。
千本の松に風もなく波も静けき
君が代の。恵みを仰ぐ朝日影。
東を照らす宮の名も高き山路
の久能山。遠く望めば玉椿筍。
箱根が嶽の二子山近き眺めは
青あらし。吹上の濱薩埵越。
岸打波の清見潟。清水の湊
朝込みに。船のゆきゝの真帆
片帆。風のまにく風早の。
御穂の社の三保神楽

音に聞えし羽衣の。松は常磐に
色かへず。幾とせふりし物語
有渡の濱辺へ雲井より。天津
乙女が天降り松に掛たる羽衣を
漁り人に拾はれて。帰る便も
荒磯の。荒し笘屋にはかなくも。

結びし夢の別れ路に。吾妻遊びと
夕汐の。差す手引く手の駿河舞
（其の今方）霓裳羽衣の一曲に。袖を返して
帰る波
其乙女にはおとるとも。伊達を
するがの弥勒町

通ひ廓の遊女に。旅寐のうさを忘れ草。朱の煙管の長かれとかはす袖師のうらなくもかたらふ間さへ短夜に。別れともなく興津川。又のちげんと約束の。日取茅ふるきぬぐに。鐘に恨みぞ有明の月は残れる吐月峯。

後へ意は残れども。狐が崎の名もあれば。是も手管と庵崎や。手越の里の少将が。昔を忍ぶ厚原の。曽我の祭りの賑はしく。

常盤津小唄太夫直傳之正本二編松富士晨明著古河
黙阿彌翁文著述ニシテ太夫自筆ヲ取ッ節句ヲ正シ
印形ヲ顕シ私方ヨリ外決ッ無御坐仍而令開版者也

北ノ如舟

常盤津小唄太夫

二味線 岸澤式佐

明治二十五年四月廿七日印刷
明治二十五年四月廿九日出版

東京本郷區南龍町三拾壱番地
著作者 吉村新七
東京下谷區谷中清水町壱番地
印刷兼發行者 坂川平四郎